



CQM(超短期経済予測モデル)

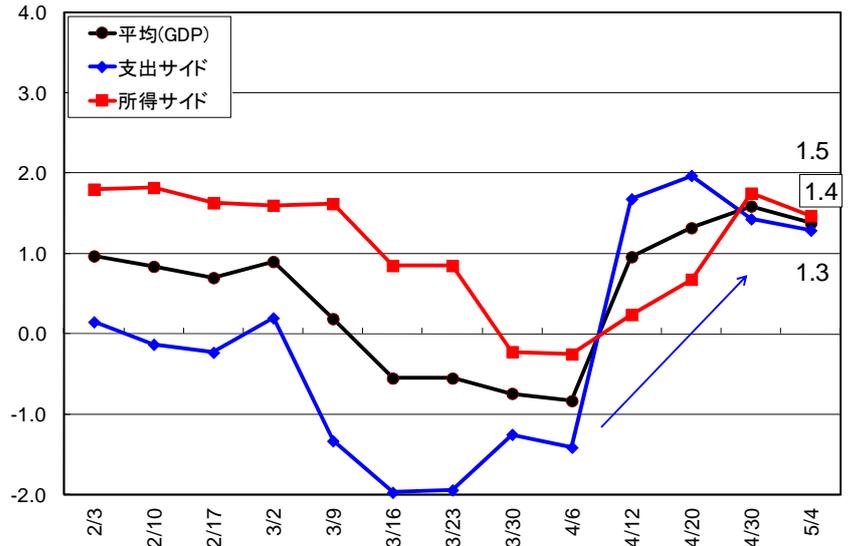
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

# 米国経済(週次)予測(2012年5月4日)

## ポイント

- ▶今週のCQM予測から4-6月期の実績値となる4月以降の月次経済統計が更新されていく。
- ▶グラフは5月4日に発表された4月の雇用統計までを更新したCQM予測を示している。支出サイド、所得サイドから予想される実質GDP伸び率(4-6月期)はそれぞれ1.3%、1.5%となっている。1-3月期の2.2%から更に経済成長率が低下すると予想されている。
- ▶暖冬により大きく改善した月次経済指標の反動が4月以降にでけると考えられる。
- ▶かなりの地域連銀の製造業指数も3月から4月にかけて低下しており、ISM非製造業指数も3月から4月にかけてかなり低下した。
- ▶かつて、グリーンズパン連銀議長が言った”ソフトパッチ”という一時的な経済成長のスローダウンが4月に見られると思われる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2012Q2 (%、前期比年率換算)



## <米景気は4-6月期に”ソフトパッチ”の可能性>

グラフは5月4日に発表された4月の雇用統計までを更新したCQM予測を表している。支出サイドから予想される実質GDP伸び率は1.3%、所得サイドからは1.5%と予測されている。1-3月期の2.2%(速報値)から更に低い成長率が予想されている。今週の予測から4-6月期の実績値となる4月の月次経済指標が更新されていくことになる。

かなりの地域連銀の製造業指数が4月に3月からかなり低下している。例えば、テキサス地域連銀の製造業指数は3月の10.8から4月には-3.4へ、カンザス地域連銀の製造業指数は3月の9から4月に3へ、フィラデルフィア地域連銀の製造業指数は3月の12.5から4月には8.5へ、ニューヨーク連銀の製造業指数は3月の20.2から4月の6.6へとそれぞれ低下している。しかし、全体のISM製造業指数は3月の53.4から4月には54.8へとわずかに上昇しているのが、幾分の明るい兆しと言える。しかし、ISM非製造業指数は3月の56.0から4月には53.5へと2ヶ月連続して低下している。しかし、テキサス地域連銀指数以外は活動の縮小、拡大の分岐点となる0あるいは50を超えていることから、リセッションへの懸念はないが景気のスローダウンが4-6月期に予想される。すなわち、かつてグリーンズパン議長が言った”ソフトパッチ”の経済状況が予想される。暖冬の反動が4月にでていると考えられる。

1-3月期のヘッドラインインフレ率が2.4%であり、今週のCQMは4-6月期のヘッドラインインフレ率を2.1%と予測している。インフレの加速化を心配するところまではいかないが、連銀のインフレ許容範囲の上限である2%とほぼ同じになっている。今後連銀はこれまでのように、实体经济のスローダウンのみに焦点をあてるのではなく、インフレ率が連銀の許容範囲を超えるような状況を考慮せざるを得なくなる。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550